

講義ユニット名	臨床医学総論		所属科目名	器官・システム病態制御学 I
講義ユニット 責任者	あわい かずお 栗井 和夫	所属	放射線診断科 (内線 5257)	
		メール	awai@hiroshima-u.ac.jp	
講義ユニット コーディネーター	まつした たけひこ 松下 毅彦	所属	医学教育センター (内線 6864)	
		メール	tmatsushita@hiroshima-u.ac.jp	
授業方法	講義形式。パワーポイントを使用して、スライドを呈示しながら進める。			
概要	臨床医学総論では、臨床系の学習を進めるにあたって必要となる総論的な知識を、科横断的な視点から身に付けることを目標とする。また、症候学、診断学、検査総論、老年医学、周術期管理などの総論的な概説とともに、医の倫理や医師のとるべき態度・心構えなど、臨床診療を行うにあたって修得しておくべき事項についても解説を行う。			
講義ユニットの 到達目標	<p>医学・医療の歴史的な流れとその意味を概説できる。</p> <p>生と死に関わる倫理的問題を列挙できる。</p> <p>医の倫理と生命倫理に関する規範、Hippocrates (ヒポクラテス)の誓い、ジュネーブ宣言、ヘルシンキ宣言等を概説できる。</p> <p>患者の基本的権利の内容を説明できる。</p> <p>患者の自己決定権の意義を説明できる。</p> <p>患者が自己決定できない場合の対処法を説明できる。</p> <p>患者やその家族と信頼関係を築くことができる。</p> <p>患者の個人的、社会的背景等が異なってもわけへだてなく対応できる。</p> <p>患者やその家族の持つ価値観が多様であり得ることを認識し、そのいずれにも柔軟に対応できる。</p> <p>医師が患者に最も適した医療を勧めなければならない理由を説明できる。</p> <p>医師には能力と環境により診断と治療の限界があることを説明できる。</p> <p>インフォームドコンセントの意義と必要性を説明できる。</p> <p>患者にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で表現できる。</p> <p>説明を行うための適切な時期、場所と機会に配慮できる。</p> <p>説明を受ける患者の心理状態や理解度について配慮できる。</p> <p>患者の質問に適切に答え、拒否的反応にも柔軟に対応できる。</p> <p>患者と家族の精神的・身体的苦痛に十分配慮できる。</p> <p>患者に分かりやすい言葉で対話できる。</p> <p>患者の心理的および社会的背景や自立した生活を送るための課題を把握し、抱える問題点を抽出・整理できる。</p> <p>医療行為が患者と医師の契約的な信頼関係に基づいていることを説明できる。</p> <p>患者の要望(診察・転医・紹介)への対処の仕方を説明できる。</p> <p>患者のプライバシーに配慮できる。</p> <p>患者情報の守秘義務と患者等への情報提供の重要性を理解し、適切な取扱ができる。</p> <p>加齢に伴う臓器の構造と機能の変化を説明できる。</p> <p>高齢者における病態・症候・治療・リハビリテーションの特異性を説明できる。</p> <p>高齢者における総合機能評価<CGA>を説明できる。</p> <p>老年症候群(誤嚥、転倒、失禁、褥瘡)の病態、治療と予防を説明できる。</p> <p>高齢者の栄養摂取の特殊性を説明できる。</p> <p>高齢者の生活支援の要点を概説できる。</p> <p>臨床検査の基準値・カットオフ値の意味が説明できる。</p> <p>検査の特性(感度、特異度、偽陽性、偽陰性、検査前確率<事前確率>・予測値、尤度比)を説明できる。</p> <p>血液検査の目的と適応を説明し、結果を解釈できる。</p> <p>尿検査の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。</p> <p>糞便検査の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。</p> <p>生化学検査項目を列挙し、目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。</p> <p>免疫学検査の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。</p> <p>検査の誤差や生理的変動を説明できる。</p> <p>正しい検体採取の方法を説明でき、不適切な採取を行ったときの検査値の異常を判断</p>			

	<p>できる。</p> <p>小児・高齢者の検査値の特徴を説明できる。</p> <p>一般細菌の塗沫・培養の目的、適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。</p> <p>細菌学的診断と血清学的診断を概説できる。</p> <p>感染症のDNA 診断法を概説できる。</p> <p>エックス線、CT、MRI と核医学検査の原理を説明できる。</p> <p>エックス線（単純、造影）、CT、MRI と核医学検査の読影の原理を説明できる。</p> <p>超音波機器の種類と原理を説明できる。</p> <p>超音波検査法の種類を列挙し、概説できる。</p> <p>超音波を用いる治療を概説できる。</p> <p>手術の危険因子を列挙し、その対応の基本を説明できる。</p> <p>基本的バイタルサイン〈体温、呼吸、脈拍、血圧〉の意義とモニターの方法を説明できる。</p> <p>主な術後合併症を列挙し、その予防の基本を説明できる。</p> <p>手術に関するインフォームドコンセントの注意点を列挙できる。</p> <p>周術期管理における輸液・輸血の基本を説明できる。</p> <p>創傷治癒機転とそれに影響を与える因子を説明できる。</p> <p>経鼻胃管の適応と管理上の注意点を列挙できる。</p> <p>集中治療室の役割を概説できる。</p>
講義日程	別紙日程表を参照のこと
出席の取り扱い	出席状況把握システムにて毎講義出席をとる。 出席が3分の2に満たない学生については試験は0点として扱う。
評価項目	到達目標の達成度 (基本的理解と知識の応用)
評価法	MCQ形式にて試験を行う。 本試験における合格基準は(平均点-2×標準偏差)とする。
推奨参考書	【購入を推奨する参考書】 内科診断学(第2版) 編集:福井次矢/奈良信雄 医学書院 循環器内科学テキスト 松下毅彦 著 メディカ出版